

2023年西洋中世学会会員年間業績リスト（2023年1月～12月）

\* 広い意味での西洋中世（古代末期～近世、イスラーム、ユダヤ、中東アジアなども含む）に関する刊行された業績を、自己申告していただいたものです（氏名=五十音順）

上尾信也（アガリオ シンヤ）

『聖母マリア頌歌集』エスコリアル E 写本にみる中世の楽器と楽師について」浅香武和（編著）『カンティガース・デ・サンタ・マリアへの誘い—聖母マリア頌歌集』（論創社）、171-208 頁。

朝治啓三（アサジ ケイゾウ）

「13世紀イングランドにおける司教による修道院巡察」『関西大学文学論集』72-4.

「アダム・マーシュからロバート・グロステスト宛書簡」、和田葉子編、関西大学東西学術研究所論文集、第16輯、『西洋文学における信仰とフィクション』

[書評] 高山博・亀永洋子編『中世ヨーロッパの政治で結合体—統治の諸相と比較』東京大学出版会、2022年、『史潮』93.

[新刊紹介] Jack Cunningham, *Robert Grosseteste and Theories of Education, The Ordered Human, Routledge, London, 2021.* 『西洋中世研究』15、174-175 頁。

安達直樹（アダチ ナオキ）

[雑誌論文] 「ネブリハの文法書における修辞学」 *HISPÁNICA* 66, pp. 1-23.

阿部晃平（アベ コウヘイ）

「初期中世におけるギリシアの七賢人」『立教史学』6、19-35 頁。

「知識をいかに体系づけるか？—『ソロモンの哲学の書』から見る初期中世における学問区分の再編成—」『西洋中世研究』15、82-103 頁。

阿部俊大（アベ トシヒロ）

「他者との共存・異文化の受容—イベリア半島における宗教的並存を中心に」『山川歴史 PRESS』（山川出版社）14、1-6 頁。

有信真美菜（アリノブ マミナ）

「祝宴の料理を描／書きたいのか書きたくないのか？ 中世ドイツ語圏の人々の飲食物に対する複雑な思い」『西洋中世研究』No. 15、143-151 頁。

[新刊紹介] Mamina Arinobu, *Ordnung des Tisches bei Hofe. Die Rolle und Funktion der Tischzuchtliteratur und die Gast- und Festmähler in der Hofgesellschaft im Hoch- und Spätmittelalter*, 『The Basis: 武蔵野大学教養教育リサーチセンター紀要』13、187-189 頁。

池上俊一（イケガミ シュンイチ）

『世界史のリテラシー 少女は、なぜフランスを救えたのか—ジャンヌ・ダルクのオルレアン解放』（NHK出版）

「ヨーロッパ中世の九柱戯」『慶應義塾大学言語文化研究所紀要』54、195-212 頁。

「歴史における嘘と真（まこと）」『UP』（東京大学出版会）608、1-8 頁。

「解説」ジョゼフ・カルメット（田辺保訳）『ブルゴーニュ公国の大公たち』（ちくま学芸文庫）、663-

672 頁.

[書評]「宮下規久朗『バロック美術——西洋文化の爛熟』『週刊読書人』12月15日号

### 石田隆太 (イシダ リュウタ)

「種の個体説を哲学的に再構築する：トマス・アクィナスとマイケル・ギセリン」『古典古代学』（筑波大学大学院人文社会科学研究科古典古代学研究室）15、1-13 頁.

「善悪の対立、中間、類——トマス・アクィナスの『悪について』におけるシンプリキオスの注解」『新プラトン主義研究』（新プラトン主義協会）21、9-19 頁.

「トマス・アクィナスの種の理論：論理的な視点から形而上学的な視点へ」『同志社哲学年報』（Societas Philosophiae Doshisha）46、61-76 頁.

[翻訳]「ドゥンス・スコトゥス『「命題集」講義録』第2巻第3区分第1部第5問題 試訳」『筑波哲学』（筑波大学哲学研究会）31、35-42 頁.（本間裕之との共訳）

[翻訳]「トマス・アクィナス『定期討論集 悪について』第16問「悪霊について」第2項～第3項 試訳」『人文学』（同志社大学人文学会）212、1-39 頁.

[書評]「アダム・タカハシ著 哲学者たちの天球」『図書新聞』3581、3 頁.

[書評]「[誌上合評会] アダム・タカハシ『哲学者たちの天球——スコラ自然哲学の形成と展開』〈書評2〉」『中世思想研究』（中世哲学会）65、147-151 頁.

[新刊紹介] BONAVENTURE, Thomas d'AQUIN, Jean Duns SCOT, *Les puissances de l'âme*. 『西洋中世研究』（西洋中世学会）15、168 頁.

### 市川佳世子 (イチカワ カヨコ)

'Staging the Virgin Mary as the Ruler of the Sieneese City-State' in Michele Bacci, Gohar Grigoryan, and Manuela Studer-Karlen eds, *Staging the Ruler's Body in Medieval Cultures: A Comparative Perspective* (Turnhout: Brepols Publishers), pp. 225-245. [<https://doi.org/10.1484/M.HMSAH-EB.5.135011>]

### 井上浩一 (イノウエ コウイチ)

『さまざまな国家——17世紀以前の世界史Ⅱ』（講座：わたしたちの歴史総合2）かもがわ出版

### 今井澄子 (イマイ スミコ)

「《聖母伝のタペストリー》にみる聖なるもののイメージ」『論集 空間と境界』（大阪大谷大学歴史文化学科調査研究報告書）第3冊、89-109 頁.

「ヤン・ファン・エイク研究と古文書文書」『COMPOST』Vol.04、64-81 頁.

[書評]「木川弘美『異世界への憧憬——ヒエロニムス・ボスの三連画を読み解く』（ありな書房）」『図書新聞』3588、第5面

### 大黒俊二 (オオグロ シュンジ)

「ジョヴァンニ・アントニオ・ダ・ファイエ『自伝』をめぐって」『資料学の方法を探る』22、72-84 頁.

「社団、公共善・エゴ・ドキュメント—塚田孝編『社会集団史』へのコメント—」『部落問題研究』245、88-95 頁.

「〈叫び〉とは何か？いかに歴史化しうるか？」『歴史科学』（大阪歴史科学協議会）254、11-15 頁.

[書評]「後藤里菜『〈叫び〉の中世—キリスト教世界における救い・罪・霊性—』（名古屋大学出版会、2021年）『史学雑誌』128(2)、88-94 頁.

大杉千尋 (オオスギ チヒロ)

『グリューネヴァルト〈イーゼンハイム祭壇画〉への誘い』(教育評論社)

大貫俊夫 (オオヌキ トシオ)

[書評]「三佐川亮宏『オットー大帝—辺境の戦士から「神聖ローマ帝国」樹立者へ』」『週刊読書人』2023年11月3日、4頁。

大沼由布 (オオヌマ ユフ)

「Gigantes の運命—古代中世ヨーロッパの巨人伝承の変遷」勝又悦子編『「巨人」の場(トポス)—古代オリエント・ユダヤ・イスラーム・ヨーロッパ文化圏における巨人表象の変遷』(同志社大学—神教学際研究センター)、59-79頁。

「執筆ノート『旅するナラティヴ—西洋中世をめぐる移動の諸相』」(徳永聡子との共著)、『三田評論』1275、88頁。

岡北一孝 (オカキタ イッコウ)

「初期近代のサン・ピエトロ聖堂造営事業からみた建築の生と死：建築の永続性をめぐって」『カルチュラル・グリーン』(カルチュラル・グリーン研究会)4、3-28頁。

「ジュリアーノ・ダ・サンガッロと古代」、『日本建築学会大会学術講演梗概集(近畿)』(日本建築学会)、207-208頁。

[新刊紹介] Hendrik Dey, *The Making of medieval Rome: A New Profile of the City, 400-1420*. 『西洋中世研究』15、176頁。

尾形希和子 (オガタ キワコ)

『西洋の護符と呪い<sup>まじな</sup> プリニウスからポップカルチャーまで』(八坂書房)

*Beasts along Boundaries: Elephants in the Medieval West. Animals on the Edge. From Exotic Beasts to Nonhuman Transcendence* (ed. Katja Fält). Trivent Publishing, pp.103-134.

岡本信照 (オカモト シンショウ)

[分担執筆]「ネブリハ」「フアン・デ・バルデス」川成洋ほか編『ハプスブルク事典』(丸善出版)、84-87頁。

小澤実 (オザワ ミノル)

Why did a Viking King meet a Pope? Cnut's Imperial Politics, Scandinavian Commercial Networks, and the Journey to Rome in 1027, Minoru Ozawa, Thomas M. Smith, and Georg Strack (ed.), *Communicating Papal Authority in the Middle Ages*. Routledge, pp. 131-144.

「トールキン・ルーン文字・JRPG」『ユリイカ 2023年11月臨時増刊号 総特集=J・R・R・トールキン』(青土社)、233-248頁。

「第2章：イヌイット×ノース人：中世における異文化接触とレジリエンス」高橋美野梨編『グリーンランド：人文社会科学が照らす極北の島』(藤原書店)、71-110頁。

「9～10世紀：ヴァイキングの時代」岡美穂子編『つなぐ世界史1：古代・中世』(清水書院)、110-113頁。

「ヴィンランド・サガの歴史学：ヴァイキングの知られざる顔」『日経サイエンス』2023年3月号、49-

55 頁.

「ルーン文字の遍歴:第9回:中世のルーン(2):北大西洋島嶼のルーン」研究社 Web マガジン *Lingua* 2023 年 7 月

(with Thomas M. Smith and Georg Strack), Introduction, in: Minoru Ozawa, Thomas Smith, and Georg Strack (ed.), *Communicating Papal Authority in the Middle Ages*. Routledge, pp. 1-10.

「序 (特集:天草灘かくれキリシタンの世界:松浦家文書から見た生業、交易、島嶼ネットワーク)」『史苑』82-1、23-26 頁.

「2022 読書アンケート」『みすず』722、20-21 頁.

勝谷祐子 (カッタニ ユウコ)

*Les peintures murales de Saint-Bonnet-le-Château Le programme dévotionnel et dynastique (fin XIVe - début XVe s.)* (Turnhout, Brepols Publishers).

加藤玄 (カトウ マコト)

「テロワール概念の成立と歴史」赤松加寿江・中川理編『テロワール —ワインと茶をめぐる歴史・空間・流通』(昭和堂)、33-55 頁.

「サン=テミリオンとシャトーの歴史」赤松加寿江・中川理編『テロワール —ワインと茶をめぐる歴史・空間・流通』(昭和堂)、127-147 頁.

加藤磨珠枝 (カトウ マスエ)

『永遠の都ローマ展』(監修および各章解説、毎日新聞社、NHK プロモーション)

「ローマのカピトリノの丘の象徴的役割—古代から中世を中心に」『永遠の都ローマ展』カタログ (毎日新聞社、NHK プロモーション)、20-26 頁. (英訳 221-224 頁)

加納修 (カノウ オサム)

[共訳]「ヨルダネス『ゲティカ』翻訳(2):67-130 節」『東方キリスト教世界研究』7、3-57 頁 (小坂俊介・村田光司と共訳)

河原温 (カワハラ アツシ)

『ファンタジー好きのための中世ヨーロッパへの誘い』(監修、宝島社)

『ハプスブルク事典』(項目執筆、丸善出版)

菊地智 (キクチ サトシ)

『『タウラーの教導』(Institutiones Taulerianae)—作品の概要と研究動向』『中世思想研究』65、62-76 頁.

[書評]「後藤里菜『〈叫び〉の中世—キリスト教世界における救い・罪・霊性』名古屋大学出版会 2021 年」『宗教研究』97(1)、125-128 頁.

[書評] Riwanon Rimlinger, *Maître Eckhart et les Béguines*, Paris: Beauchesne, 2021 『中世思想研究』65、124-129 頁.

[新刊紹介] Ineke Cornet, *The Arnhem Mystical Sermons: Preaching Liturgical Mysticism in the Context of Catholic Reform* (Brill's Series in Church History and Religious Culture, 77), Leiden-Boston, Brill, 2018. 『西洋中世研究』15、173 頁.

菊地重仁 (キクチ シゲト)

Authority at a distance: popes, their media, and their presence felt in the Frankish kingdom, in: *Communicating Papal Authority in the Middle Ages*, edited by Minoru Ozawa, Thomas W. Smith and Georg Strack (Studies in Medieval History and Culture), London: Routledge, pp. 13-30.

「ヨーロッパ初期中世の政治文化をめぐって: 「威嚇」の様態を考える」『文化交流研究: 東京大学文学部次世代人文学開発センター研究紀要』36、19-26頁。

[監訳・訳注]「史料試訳 リヨン大司教アモロのラングル司教テウトバルドゥス宛書簡」(荻野美櫻子・上遠野翔・清水葉・長澤咲耶・弓岡弘樹・李彦博訳)『クリオ』37、60-79頁。

北館佳史 (キタダテ ヨシフミ)

「クレルヴォー修道院の祭壇と聖遺物」『人文研紀要』(中央大学人文科学研究所) 106、127-156頁

『オバジーヌの聖エティエンヌ伝』試訳(五)『紀要』(中央大学文学部) 296、45-69頁。

北村秀喜 (キタムラ ヒデキ)

「13世紀末から15世紀前半ヴェローナにおける人文主義の探求について—セネカの名で伝わる10篇の悲劇群の伝承経路に関する考察」『早稲田大学イタリア研究所研究紀要』12、1-20頁。

清野真惟 (キヨノ マイ)

「マキアヴェッリの歴史叙述におけるイタリア同盟の時代」『史学雑誌』132(7)、1-37頁。

[新刊紹介]「フロセル・サバテ著 阿部俊大監訳『アラゴン連合王国の歴史—中世後期ヨーロッパの一政治モデル—』(世界歴史叢書)『史学雑誌』132(2)、91-92頁。

[新刊紹介]「Giuseppe Caridi, *Gli aragonesi di Napoli: una grande dinastia del Sud nell'Italia delle Signorie*」『西洋中世研究』15、169-170頁。

久木田直江 (Naoë Kukita Yoshikawa) (クキタ ナオエ)

*Women, Words and Devotional Literature in the Later Middle Ages: Giving Voice to Silence, Essays in Honour of Catherine Innes-Parker*, ed. Cate Gunn, Liz Herbert McAvoy and Naoë Kukita Yoshikawa (Cambridge: D. S. Brewer, 2023)

‘Embracing the Body and the Soul: Women in the Literary Culture of Medieval Medicine’, in *Women and Medieval Literary Culture: From the Early Middle Ages to the Fifteenth Century*, ed. Corinne Saunders and Diane Watt (Cambridge: Cambridge University Press, 2023), pp. 141-59.

“*Fluvius autem de Corde Dei egredibatur*”: Medicalised Discourse and Holy Women’s Writing at Helfta and Siena’, in *Writing Holiness across Boundaries: Gender, Genre, and the Study of Sanctity*, ed. Jessica Barr and Barbara Zimbalist (Turnhout: Brepols, 2023), pp. 85-108.

‘Cecily Neville’s Devotional Library: Networks of Readers and Models of Female Piety’, in *Women, Words and Devotional Literature in the Later Middle Ages: Giving Voice to Silence, Essays in Honour of Catherine Innes-Parker*, Cate Gunn, Liz Herbert McAvoy and Naoë Kukita Yoshikawa (Cambridge: D. S. Brewer, 2023), pp. 260-76.

‘*The Boke of Gostely Grace* and *The Orchard of Syon*: Revelations of “aprouyd wymmen” and their Readership in Fifteenth-century England’, in *Medieval Translations and their Readers, Medieval Translator*, 10, ed. Pavlina Rychterova and Jan Odstrcilik (Turnhout: Brepols, 2023), pp. 317-35.

‘Women’s Writing in the Japanese Heian Period: A Medieval Dialogue between the East and West’, in *Women’s Literary Culture and the Canon in the Global Middle Ages: Speaking Internationally*,

ed. Kathryn Loveridge, Liz Herbert McAvoy, Sue Niebrzydowski and Vicki Kay Price (Cambridge: D. S. Brewer, 2023), pp. 61-79.

草生久嗣 (クサブ ヒサツグ)

"Medieval Heretics in the East: A Heresiological Label for Bosnian Bogomils/Patarenes in the thirteenth Century," *Communicating Papal Authority in the Middle Ages*, M. Ozawa, Th.W. Smith and G. Strack eds., Routledge: New York, 2023, pp. 173-185.

[新刊紹介] Anne P. ALWIS, Martin HINTERBERGER and Elisabeth SCHIFFER (eds.), *Metaphrasis in Byzantine Literature, Turnhout*, Brepols Publishers, 2021、『西洋中世研究』15、164頁。

久米順子 (クメ ジュンコ)

Medieval European Art History in Japan. *Imago Temporis: Medium Aevum* 17, pp. 61-77.

[新刊紹介] Morais Moran, Jose Alberto, Teijeira Pablos, Maria Dolores (coords.), *Academia, educacion e innovacion en la historia del arte medieval*. 『西洋中世研究』15、196-197頁。

[新刊紹介] J. Oliveira Caetano, S. Macias (eds.), *Guerreiros e martires a Cristandade e o Islao na formacao de Portugal*. 『西洋中世研究』15、198-199頁。

[翻訳] 川瀬佑介ほか編著『スペインのイメージ 版画を通じて写し伝わるすがた』(国立西洋美術館)、194-273頁。(作品解説の一部)

黒川正剛 (クロカワ マサタケ)

「西洋中・近世における巨人表象とイマジネール —聖人・野人・パタゴニア人」勝又悦子編『Conference Proceedings 「巨人」の場 (トポス) —古代オリエント・ユダヤ・イスラーム・ヨーロッパ文化圏における巨人表象の変遷』(同志社大学一神教学際研究センター)、165-188頁。

[研究ノート]「近世フランスの百科事典における「驚異」認識について —A・フェルティエール著『普遍辞典』(1689年)から」『太成学院大学紀要』25(42)、55-95頁。

[コラム]「魔女狩り」『岩波講座 世界歴史 15 主権国家と革命 一五〜一八世紀』岩波書店、101-102頁。

桑原夏子 (クワバラ ナツコ)

『聖母の晩年——中世・ルネサンス期イタリアにおける図像の系譜』(名古屋大学出版会)

児嶋由枝 (コジマ ヨシエ)

La cripta, il calice e la Madonna di Benedetto Antelami del Duomo di San Donnino a Fidenza. *Recueil d'études offertes à Xavier Barral i Altet*, ed. M. Jurković, Univ. Zagreb, pp. 323-334.

「キリシタン聖画とジョヴァンニ・コーラの画学舎」『ヨーロッパが日本に出会ったとき：アレクサンドロ・ヴァリニャーノ』(長崎文献社)、80-83頁。

小林亜沙美 (コバヤシ アサミ)

[翻訳]「ランパート・フォン・ヘルスフェルトの『編年誌』1077年の章 翻訳と解説」『就実論叢』52(就実大学)、39-54頁。

[翻刻]「西洋史研究者オットー・ブルンナー(1889-198)の書簡」『就実大学史学論集』37(就実大学人文科学部史学科)、115-164頁。

[新刊紹介] Georg Strack, *Solo Sermones. Überlieferung und Deutung politischer Ansprachen der Päpste im Mittelalter*. 『西洋中世研究』15、206-207頁。

佐伯（片倉）綾那（サエキ（カタクラ）アヤナ）

- 「アンナ・コムネナのヨハネス 2 世に対する反論——『アレクシアス』に見る「ポルフェラの生まれ」と「ポルフェログネトス」を対比して」、『女性史学』（女性史総合研究会）33、1-20 頁。
- [新刊紹介] Oana-Maria Cojocaru, *Byzantine Childhood: Representations and Experiences of Children in Middle Byzantine Society* [Routledge Research in Byzantine Studies]. 『西洋中世研究』15、172-173 頁。
- [その他] 「12 世紀ビザンツ歴史書『アレクシオス 1 世伝』に見るポルフェラの産室（女性史総合研究会 3 月例会報告概要）」、『女性史総合研究会会報』（女性史総合研究会）197、1 頁。
- [その他] 「報告 3 東地中海世界における女性用の区画——ビザンツ帝国・オスマン帝国を事例に（女性史総合研究会 2023 年度第 2 回例会報告概要）」、『女性史総合研究会会報』（女性史総合研究会）200、1-2 頁。

坂本邦暢（サカモト クニノブ）

- Astronomy, Cosmology, and the Limit of Empiricism in Gassendi's Thought. In Pierre Gassendi: Humanism, Science, and the Birth of Modern Philosophy*, ed. Delphine Bellis, Daniel Garber, and Carla Rita Palmerino (London: Routledge), pp. 292-311.
- (With Yoshi Kato) *A Diagnosis of Cartesian Atheism: Petrus van Mastricht's Critique of Spinoza's Theological-Political Treatise. Church History and Religious Culture* 103 (1), pp.39-59.
- (With Yoshi Kato) *A Trojan Horse in the Citadel of Orthodoxy: Samuel Maresius's Critique of Cartesian Theology. The Seventeenth Century* 38(5), pp. 813-831.

櫻井康人（サクライ ヤスト）

- 『十字軍国家』（筑摩書房）
- 「十字軍と「キリストの騎士」・「エピソード・トピック：映画『キングダム・オブ・ヘブン』」岡美穂子責任編集『つなぐ世界史 1—古代・中世』（清水書院）、156-161・162-163 頁。
- 「教皇ウルバヌス 4 世の十字軍政策（下）」『東北学院大学論集 歴史と文化（旧歴史学・地理学）』67、97-119 頁。
- 「日本人初のエルサレム巡礼者」『ヨーロッパ文化史研究』24、21-32 頁。

佐々木徹（ササキ トオル）

- 「神の美と神学」『茨城キリスト教大学紀要』57、33-49 頁。

佐々木博光（ササキ ヒロミツ）

- [雑誌論文] 「ソサイエティ再論」『フェネストラ：京大西洋史学報』7、1-11 頁。

佐藤彰一（サトウ ショウイチ）

- 『フランク史 III カロリング朝の達成』（名古屋大学出版会）
- [新刊紹介] Michael EBER, Stefan ESDERS, Till STÜBER (hrsg. und übersetzt.) *Die Lebensbeschreibung des Lupus von Sens und der merowingische Machtwechsel von 613 / 614 : Studien, redivierter Text und Übersetzung.* 『西洋中世研究』15、177 頁。
- [項目執筆] 「ローマ略奪（サッコ・ディ・ローマ）」、「大航海時代」『ハプスブルク事典』、丸善出版

### 佐藤公美 (サトウ ヒトミ)

「日本で外国史を研究すること——中世ヨーロッパ史とイタリア史の現場から」黄霄龍・堀川康史 (編) 『海外の日本中世史研究—「日本史」・自国史・外国史の交差』 (勉誠社)、186-194 頁。  
「歴史理論 (「2022 年の歴史学界——回顧と展望——)」」『史學雑誌』 132 (5)、6-10 頁。

### 柴田隆功 (シバタ タカノリ)

[新刊紹介] 「Philipp Meller, Kulturkontakt im Frühmittelalter: Das ostfränkische Reich 936-973 in globalhistorischer Perspektive [Europa im Mittelalter, 40], Berlin, De Gruyter, 2021, 414p., €99,95」 『西洋中世研究』 15、194-195 頁。

[新刊紹介] 「Sarah Greer, Commemorating Power in Early Medieval Saxony: Writing and Rewriting the Past at Gandersheim and Quedlinburg, Oxford, OUP, 2021, xiv+206p., £75」 『西洋中世研究』 15、182-183 頁。

### 甚野尚志 (ジンノ タカシ)

[翻訳] (単独訳) S.パツォルト 『封建制の多面鏡—「封」と「家臣制」の結合』 (刀水書房)

### 図師宣忠 (ズシ ノブタダ)

[書評] 「後藤里菜著『〈叫び〉の中世——キリスト教世界における救い・罪・霊性——』」 『西洋史学論集』 60、72-75 頁。

[新刊紹介] 「Yoichi KAJIWARA, *Du frère au maître: Les dominicains de France face au système universitaire des grades au Moyen Âge*, Paris, Les Éditions du Cerf, 2022, 534p., €38.00」 『西洋中世研究』 15、186-187 頁。

### 鈴木広和 (スズキ ヒロカズ)

「聖ラースロー物語再考 — 中世における聖ラースロー崇敬の隆盛 —」 『ハンガリー研究』 (大阪大学大学院人文学研究科学国学専攻) 2、27-62 頁。

### 瀧本佳容子 (タキモト カヨコ)

[新刊紹介] Elisa Borsari & Guillermo Alvar Nuño (eds.), *Tradición clásica y literatura medieval*. 『西洋中世研究』 15、pp. 167-168.

[新刊紹介] Elvira Fidalgo (ed.), Alfonso X el Sabio: cronista y protagonista de su tiempo. 『西洋中世研究』 15、p. 178.

[新刊紹介] Juan Molina Figueras (ed.), El marqués de Santillana. Imágenes y letras. 『西洋中世研究』 15、pp. 195-196.

### 田口正樹 (タグチ マサキ)

Die Königsgerichtsbarkeit und das privilegium fori im deutschen Spätmittelalter (1273-1400), in: Zeitschrift der Savigny-Stiftung für Rechtsgeschichte, Germanistische Abteilung 140, pp. 62-126.

「封建制と西洋中世社会」 『法学教室』 509、50-53 頁。

[新刊紹介] Hiromi ABE-KOSAKA, „Außenpolitik“ der Reichsstadt Nürnberg im 15. Jahrhundert: Korrespondenz und Gesandtschaften des Nürnberger Rates [Nürnberger Werkstücke zur Stadt- und Landesgeschichte, Bd. 79], Nürnberg, Verlag Ph. C. W. Schmidt, 2022, xii+905p. 『西洋中世研究』 15、161 頁。

[新刊紹介] Jürgen DENDORFER & Steffen PATZOLD (eds.), *Tenere et habere: Leihen als soziale Praxis im frühen und hohen Mittelalter* [Besitz und Beziehungen: Studien zur Verfassungsgeschichte des Mittelalters, Bd. 1], Ostfildern, Jan Thorbecke Verlag 2023, 482p.] 『西洋中世研究』 15、175-176 頁.

田中圭子 (タナカ ケイコ)

[翻訳] 「コンラート・ツェルティスのジクストゥス・トゥヒャー宛書簡 (1492 年晩秋)」 『大分県立芸術文化短期大学研究紀要』 60、43-46 頁.

田中俊之 (タナカ トシユキ)

The Everlasting League of 1291 in Switzerland as a Defense against the Habsburgs ? : Recent Perspective and the Process of its Formation. 『金沢大学歴史言語文化学系論集 [史学・考古学篇]』 15, pp.47-63.

田辺清 (タナベ キヨシ)

[単行本] (単著) 『レオナルド・ダ・ヴィンチの源泉—様式・文学・人物表現』 (春風社)

[雑誌論文] (単著) 「レオナルド・ダ・ヴィンチの素描様式と東方—初期作品と《レダと白鳥》をめぐって—」 『東洋研究』 (大東文化大学東洋研究所) 230、115-126 頁.

田邊めぐみ (タナベ メグミ)

Les fleurs parlantes dans les livres de dévotions d'Anne de Bretagne », in Jean-Luc Deuffic (dir.), *Pecia. Le livre et l'écrit*, No.25, Turnhout : Brepols, pp. 173-201.

[新刊紹介] Jean-Marie Guillouët, *L'art du XVe siècle*, Presses universitaires de Rennes, 2021 『西洋中世研究』 15、183 頁.

[新刊紹介] Michel Nassiet, *Anne de Bretagne: Correspondance et itinéraire*, Presses universitaires de Rennes, 2022 『西洋中世研究』 15、198 頁.

[メディア] 「研究過程の情報を活用しよう」、日本経済新聞「私見卓見」、11月15日

[メディア] 「「想像展覧会」を創造する」、『美術の窓』12月号「視点」、生活の友社、166-167 頁.

千葉敏之 (チバ トシユキ)

『歴史の転換期5 1348年気候不順と生存危機』 (共著、山川出版社)

津田拓郎 (ツダ タクロウ)

Zur Entstehung der „Kapitulariensammlung“ im Liber legum des Lupus und zur Vielfalt der „Kapitularien“ Karls des Großen. *Deutsches Archiv für Erforschung des Mittelalters* 79 (1), S. 1-71.

藤内哲也 (トウナイ テツヤ)

[新刊紹介] 「堀井優著『近世東地中海の形成—マムルーク朝・オスマン帝国とヴェネツィア人—』 (名古屋大学出版会、2022年)」 『西洋史学論集』 60、99-101 頁.

中川久嗣 (ナカガワ ヒサシ)

「南フランス・ガール県南部のロマネスク聖堂 (1) —ニームおよびボーケールとその周辺」 『東海大学紀要 文化社会学部』 9、97-144 頁.

「南フランス・ガール県南部のロマネスク聖堂 (2) —サン=ジルとその周辺—」『東海大学紀要 文化社会学部』10、75-118 頁.

「南フランス・ドローム県中部の中世ロマネスク聖堂 (3) ドローム溪谷とディオワ地方」『文明研究』(東海大学文明学会) 41、31-62 頁.

### 野川夢美 (ノガワ ユメミ)

「初期計量記譜法における「プリカ」：その歌唱法と消滅への一考察 The "Plica" in early mensural notation : a consideration of its singing method and disappearance」『桐朋学園大学研究紀要』(桐朋学園大学) 49、173-186 頁.

### 濱野敦史 (ハマノ アツシ)

[新刊紹介]「Chiara FRUGONI, *A letto nel Medioevo: Come e con chi*, Bologna, Società editrice il Mulino, 2022」『西洋中世研究』15、179-180 頁.

### 平野智洋 (ヒラノ トモヒロ)

[翻訳]「ミハイル・パナレトス『トラペズスの諸皇帝について』(2)—第 38-85 章 (翻訳・註釈・解説)」『東海史学』57、43-60 頁.

### 藤崎衛 (フジサキ マモル)

『ローマ教皇は、なぜ特別な存在なのか—カノッサの屈辱』(NHK 出版)

『世界史探究』(福井憲彦・秋葉淳・太田信宏・加藤玄・川島真・工藤晶人・高野太輔・佐川英治・田中創・西山暁義・土屋斎嘉・角田展子・山本勝治との共著、東京書籍)

Il Giappone per Angelo Orsucci, in Paolo Giulietti, Olimpia Niglio (eds.), *THESAURUM FIDEI Missionari martiri e cristiani nascosti in Giappone. Trecento anni di eroica fedeltà a Cristo. Atti del convegno internazionale (Lucca, 6-7 maggio 2023)*, Lucca, Edizioni La Villa, pp. 171-179.

Papal Contact with the Mongols. Means of Communication in the Thirteenth Century, in Minoru Ozawa, Georg Strack, Thomas Smith (eds.), *Communicating Papal Authority in the Middle Ages*, London, Routledge, pp. 145-158.

「イエスの生誕、12月25日」「ローマのサトゥルナリア祭と冬至祭」「ゲルマン世界の冬至祭」「降誕から公現への十二夜」「古代東方キリスト教のクリスマス」「サンタクロースの出現」「中世・近代における祝祭」、樺山紘一・中牧弘允(編)『世界のクリスマス百科事典』(丸善出版)、6-9、10-11、12-13、14-17、18-19、20-23、24-27 頁.

「西欧とモンゴルの間におけるコミュニケーション—宣教・外交における翻訳・通訳をめぐる問題—」『西洋史研究』新輯 52、158-171 頁.

[新刊紹介] Agostino Paravicini Bagliani, *La papessa Giovanna: I testi della leggenda (1250-1500)* [Millennio Medievale, 120], Firenze, SISMELE – Edizioni del Galluzzo, 2021. 『西洋中世研究』15、200-201 頁.

### 藤村拓也 (フジムラ タクヤ)

『自然という書物—15~19世紀のナチュラルヒストリー&アート—』展図録(共編著、町田市立国際版画美術館)

舟橋倫子（フナハシ ミチコ）

「中世盛期ブリュッセル地域の修道院所領——ラ・カンブル修道院 13 世紀前半文書の分析——」『人文研紀要』（中央大学人文科学研究所）104、33-60 頁.

細田あや子（ホソダ アヤコ）

『虹への祈り—聖書にみるいのちのつながり』（新潟日報社メディアネット）

堀越宏一（ホリコシ コウイチ）

【書評】「上山益己『中世盛期北フランスの諸侯権力』」『史学雑誌』132 (9)、70-82 頁.

三佐川亮宏（ミサガワ アキヒロ）

『オットー大帝——辺境の戦士から「神聖ローマ帝国」樹立者へ』（中公新書）

『クレモナのリウトブランド『報復の書』/ ヴァイゼンブルクのアーダルベルト『レーギノ年代記続編』』（知泉書館）

「大公ハインリヒと黄金の首飾り—ヴィドゥキント『ザクセン人の事績』第 1 巻 22 章を読む」『東海大学文学部紀要』113、1-26 頁.

【新刊紹介】Folker Reichert, *Fackel in der Finsternis. Der Historiker Carl Erdmann und das „Dritte Reich“*. Band 1: Die Biographie, Band 2: Briefe 1933–1945. Wissenschaftliche Buchgesellschaft, 2022, 『西洋中世研究』15、201-202 頁.

向井伸哉（ムカイ シンヤ）

【書評】「高田京比子ほか編著『中近世ヨーロッパ史のフロンティア』」『史林』106-3、52-58 頁.

【新刊紹介】François Otchakovsky-Laurens et Laure Verdon, dir., *La voix des assemblées. Quelle démocratie urbaine au regard des registres de délibérations ? Méditerranée-Europe XIIIe-XVIIIe siècles*. 『西洋中世研究』15、199-200 頁.

武藤奈月（ムトウ ナツキ）

【博士論文】*Le merveilleux dans les romans d'antiquité*, thèse de doctorat, Sorbonne Université.

村上寛（ムラカミ ヒロシ）

「ホノリウス・アウグストドゥネンシス『雅歌講解』を巡る女性と女性性の問題について」「キリスト教と女性」研究会編『西方キリスト教と女性—その霊的伝承と雅歌の伝統』（教友社）、9-31 頁.

「マルグリット・ポレートにおける生 (vie) の意味について」『カトリコス』（東京純心大学キリスト教文化研究センター紀要）16、1-16 頁.

「マルグリット・ポレートと新プラトン主義」『新プラトン主義研究』21、63-72 頁.

村田光司（ムラタ コウジ）

*Dei et ecclesiae inimicus: A Correspondence between Pope Gregory IX and John III Batatzes*. in M. Ozawa, T. W. Smith, G. Strack, eds., *Communicating Papal Authority in the Middle Ages*, Routledge, pp. 159-172.

(Koji Murata, Hisashi Hayakawa, Mitsuru Sôma) A critical assessment of questionable solar eclipse memories in the Byzantine Empire from the fourth to sixth centuries CE. *Journal for the History of Astronomy* 54(2), pp. 193-212.

(Ryo Higuchi and Koji Murata) 3D Scholarly Editions for Byzantine Studies: Multimedia Visual Representations for History, Art History and Architectural History. *ISPRS Annals of the Photogrammetry, Remote Sensing and Spatial Information Sciences* X-M-1-2023, pp. 125-131.

「東と西のあいだで——ビザンツによるモンゴル関連情報の集積・体系化・外交実践——」『西洋史研究』52、182-209 頁。

[翻訳] (加納修、小坂俊介、村田光司) 「ヨルダネス『ゲティカ』翻訳 (2) : 67-130 節」『東方キリスト教世界研究』7、3-57 頁。

[新刊紹介] 「Ludovic BENDER, *Ermitages et monastères rupestres byzantins de Laconie (Péloponnèse): Archéologie et paysages*」『西洋中世研究』15、166-167 頁。

#### 村松綾 (ムラマツ アヤ)

「金細工師の社会的地位と技能 —16 世紀の都市バーゼルを中心に—」『比較都市史研究』41、14-36 頁。  
「帝国都市ニュルンベルクの金細工師ヴェンツェル・ヤムニッツァーとスイスのバーゼル市に残された自然物鑄造作品に関する一考察」『FUSUS (アジア鑄造技術史学会誌)』15、137-144 頁。

#### 村松真理子 (ムラマツ マリコ)

*Tracce iconografiche come segni della memoria-oblio del cristianesimo giapponese in Italia tra XV e XVII secolo.* In: *Thesaurum fidei. Missionari martiri e cristiani nascosti in Giappone. Trecento anni di eroica fedeltà a Cristo.* Atti del convegno internazionale (Lucca, 6-7 maggio 2023). Paolo Giulietti, Olimpia Niglio (a cura di). 91-105. Edizioni La Villa.

#### 山内志朗 (ヤマウチ シロウ)

『中世哲学入門——存在の海をめぐる思想史』(筑摩書房)

#### 弓岡弘樹 (ユミオカ ヒロキ)

[共訳] 「史料試訳 リヨン大司教アモロのラングル司教テウトバルドゥス宛書簡」『クリオ』37、60-79 頁。

[新刊紹介] 「ジョン・H・アーノルド著、図師宣忠・赤江雄一訳『中世史とは何か』岩波書店、2022 年」『史学雑誌』132 (4)、83-84 頁。

#### 横山安由美 (ヨコヤマ アユミ)

L'examen de la figure de la « Femme Fatale » par Christine de Pizan dans *l'Épître au Dieu d'amours* : qui trompe, entre homme et femme ? 『立教大学フランス文学』52、3-18 頁。

#### 頼順子 (ライ ジュンコ)

「消されゆくアンヌ・ド・フランスの記憶 : トリノ国立文書館所蔵資料 J.a.VII.31 の記述を巡って」『史窓』(京都女子大学史学会) 80、1-27 頁。

#### 和栗珠里 (ワグリ ジュリ)

「国立ヴェネツィア古文書館のコンミッサリーア文書群」(研究ノート)『人間文化研究』18、130-118 頁。

「コンミッサリーア : ヴェネツィア共和国の遺言信託」『人間文化研究』19、71-95 頁。

「社会的紐帯としての信託—近世ヴェネツィアにおけるコンミッサリーア—」(研究発表要旨)『地中海

学会月報』460、7頁.

**渡邊裕一（ワタナベ ユウイチ）**

「フッガー家」川成洋ほか編『ハプスブルク事典』（丸善出版）、112-113頁.

「黒死病後の社会：繰り返すペスト被害と都市の疫病対策」『経済研究所年報』（成城大学経済研究所）36、57-82頁.

**渡辺有美（ワタナベ ユミ）**

[論文]「スポレート大聖堂と典礼—図像における音楽表現と銘文—」『東北学院大学 宗教音楽研究所紀要』27、1-10頁.

“Filippo Lippi’s Frescoes at Spoleto, Cardinal Eroli, and the Immaculate Conception,” *Mitteilungen des Kunsthistorischen Institutes in Florenz*, LXIV, Band, Heft 2, 2022, pp. 221-240.

[講演会]「マリア崇敬—ロレートの『聖なる家』と『受胎告知』を中心に—」2023年度東北学院大学文学部総合人文学科公開講座、2023年7月15日